

ESTモデル事業について

平成17年9月

国土交通省 総合政策局
環境・海洋課

環境的に持続可能な交通（EST）モデル事業

環境的に持続可能な交通の実現を目指す先導的な地域を募集し、関係省庁、関係部局の連携により集中的に支援
モデル事業には、環境目標の設定・検証、取組効果の持続性の確保を求め、環境の観点から施策の効果を確保
自治体、地元経済界、交通事業者、道路管理者、警察関係者、NPO等、地元の幅広い関係者が参加して事業を推進

モデル事業のメニュー例

環境の改善

公共交通機関の利用促進

通勤交通 マネジメント

従業員のマイ
カー通勤の自
粛等
パークアンド
ライド

LRTの整備・ 鉄道の活性化 等

LRTプロジェクト
の推進
ICカードの導入
交通結節点整
備

バスの活性化

オムニバスタウン
サービス改善
PTPS
バス停改善
バスロケーションシステム
ノンステップバス
共通ICカード

自動車交通流の円滑化

道路整備等

交差点改良等
路上工事の縮減
ボトルネック踏
切の解消

交通規制等

バス専用・優先
レーン
違法駐車対策
の推進

歩行者・自転車対策

関連の基盤 整備等

歩道、自転車道、
駐輪場等の整備
地域の合意に
基づくトランジ
ット
モールの導入

低公害車の導入

低公害車等 の導入

CNGバスの導入
促進
低公害車両の
優遇

普及啓発

普及啓発 活動

広報活動の実
施
シンポジウム、
イベントの実施
等



LRTプロジェクトの推進



バスロケーションシステム



バス専用・優先レーン



歩道、自転車道の整備



CNGバス等の低公害車の導入

環境改善目標の設定（CO2排出削減量等）

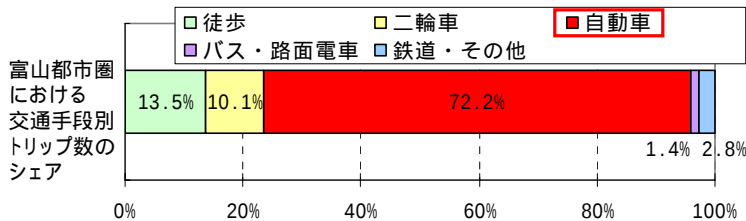
取組主体（事業者等）の継続的・自立的取組の確保

→ 地域における交通環境改善の先導的事例を全国に拡大

ESTモデル事業の事例【富山市】

事業概要

富山市は、過度に車に依存した交通体系となっており、少子高齢化及び地球温暖化といった社会問題をふまえ、車からLRT (Light Rail Transit) などの公共交通への転換を進めるとともに、都心居住の推進、中心市街地の活性化を図り、環境にも優しく持続可能な都市構造(コンパクトなまちづくり)を目指すもの。



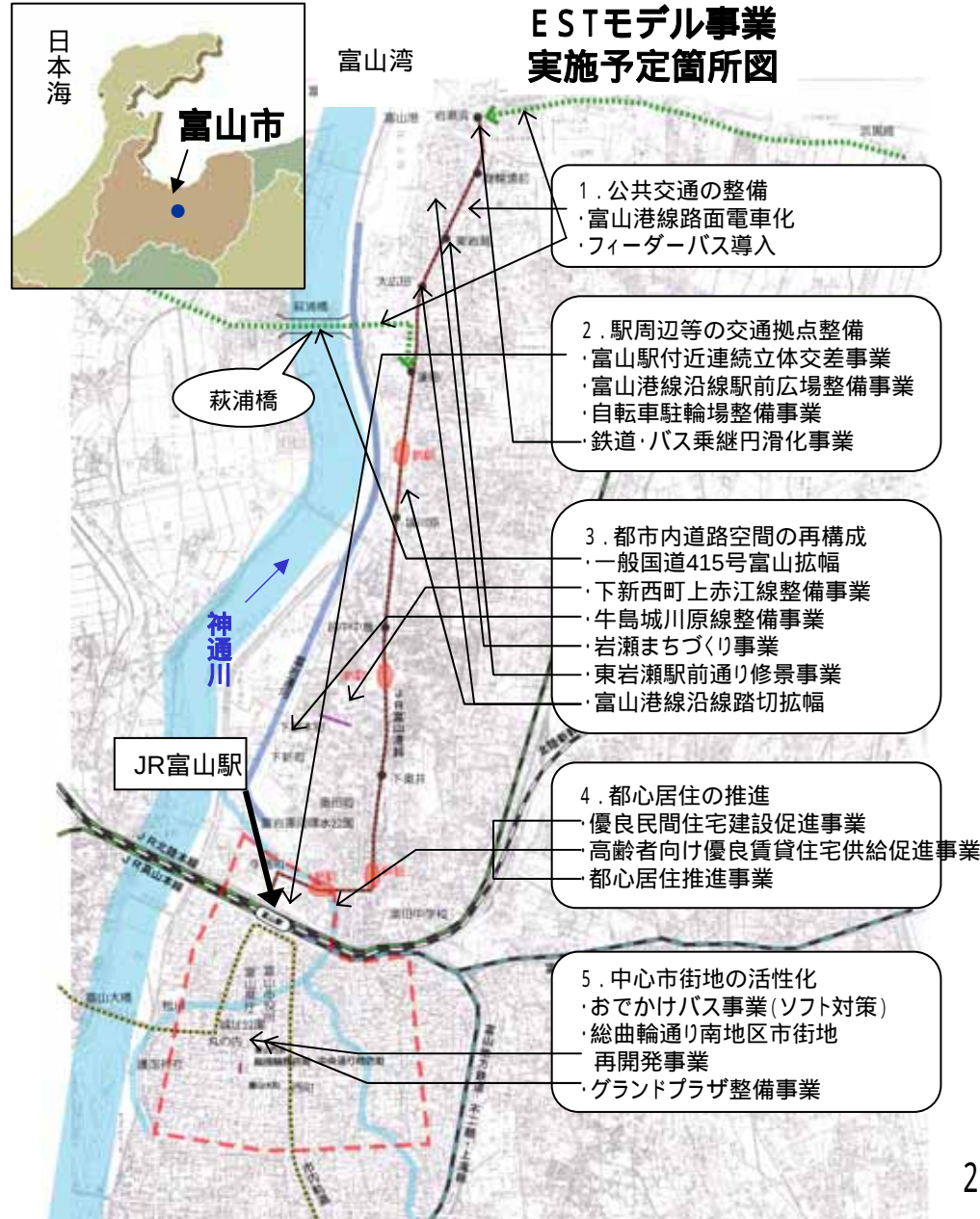
富山市内一般国道415号の萩浦橋付近(H15.5撮影)

目標

平成19年度までに
対象エリアCO₂排出量を
522t-CO₂(約0.6%)削減 (H16年度比)

・富山港線の路面電車化: 324t-CO₂の削減 等

ESTモデル事業 実施予定箇所図



ESTモデル事業の進捗状況

2005年度より実施されているESTモデル事業に対し、8月末時点の状況等を下記のようにまとめた。

	テーマ	概 要	進捗状況
1	人と環境を重視した新しい時代の都心交通の創出 「さっぽろ都心交通計画推進事業」	公共交通を軸とした交通システムの充実、適正な自動車等の利用による交通の円滑化、道路空間の再配分による都心再生の具体化等により、人と環境を重視した新しい時代の都心交通の創出を目指すもの	H17.2.14に「国土交通省環境行動計画（EST）モデル事業計画推進プロジェクトチーム委員会」を設立。9月から都心部荷さばき対策実証実験等を開始。（H17当初予算額：約4千万円）。
2	環境負荷の小さい交通への転換（環境的に持続可能な交通（EST）への転換）	公共交通による移動時間短縮施策、公共交通サービス向上施策、TDM施策、景観・緑化事業等の推進により軌道系交通機関を基軸とした集約型市街地の形成や杜の都にふさわしい緑美しい都市の実現を目指すもの	H14.3.22に設立した「公共交通利用促進検討会」において、本モデル事業を議題にこれまで2回開催。本年度はJR南仙台駅東口の駅前広場の整備事業等を実施（H17当初予算額：約94億円）。
3	「つくばエクスプレス」開業に伴う総合的な公共交通機関の利用促進	つくばエクスプレス開業に併せたバス路線の再編を中心に、コミュニティバスの導入、駅前広場や駐輪場の整備等による公共交通機関への利用転換や自転車を活用したまちづくり、低公害車の導入等による環境負荷の軽減を図るもの	H17.2.4に「柏市・流山市環境行動計画モデル事業プロジェクトチーム」を設立。本年度はコミュニティバス実証実験等を実施（H17当初予算額：約1億円）。
4	三郷市及び八潮市全域をステージとした持続可能な交通環境づくりモデル事業	つくばエクスプレス開業に併せたバス交通ネットワークの再編、バス共通ICカードの導入、交通モード相互の情報提供システム整備等による公共交通利用促進策、三郷駅周辺の交通円滑化を進め、環境的に持続可能な交通環境の創出を目指すもの	H17.2.7に「三郷市・八潮市地域ESTモデル事業プロジェクトチーム」を設立。本年度はバス共通ICカード導入の実証実験等を実施（バス事業者主体）（H17当初予算額：約8億円）。
5	富山市における環境的に持続可能な交通（EST）モデル事業	富山港線へのLRT導入等公共交通の整備や交通拠点整備等による公共交通機関への転換を図るとともに、都市内道路空間の整備等交通円滑化、都心居住の推進により中心市街地の活性化を図り、環境にもやさしく持続可能な都市構造を目指すもの	H17.1.21に「富山市環境行動計画モデル事業プロジェクトチーム」を設立。これまで2回開催。本年度は富山港線路面電車化（LRTの導入）等を実施（H17当初予算額：約93億円）。

	テーマ	概 要	進捗状況
6	地方都市圏における公共交通利用促進による地球温暖化防止実践活動の検証と定着	三岐鉄道の整備及び駅周辺事業を中心に、鉄道・バス利用者の利便性向上を図るとともに、パーク・アンド・ライドや普及啓発活動に取り組むことにより、三重県北勢地区において環境負荷の小さい交通への転換を目指すもの	H17.2.3に「三重県環境行動計画モデル事業推進協議会」を設立。本年度は、北勢地区におけるパーク・アンド・ライド社会実験等を実施（H17当初予算額：約17億円）。
7	交通IT・都市環境改善プロジェクト「人と環境にやさしい先進的な交通まちづくりを目指して」	通勤等のTDM施策の推進や、ITS技術を活用した総合交通対策に取り組み、公共交通の利用促進や道路交通の円滑化等とあわせ、「人と環境にやさしい先進的な交通まちづくり」を進めるもの	H17.2.9に「豊田市ITS推進会議 環境行動計画モデル事業ワーキンググループ」を設立。本年度は道路交通や観光等の目的地情報等の総合的な情報提供事業等を実施（H17当初予算額：約98億円）。
8	京都都市圏における環境負荷が小さく便利で快適な移動環境づくり	京都議定書策定の地で、過度に自動車に依存したライフスタイルや土地利用を見直し、鉄道へのアクセス改善や通勤交通需要マネジメント等を含めた総合的な施策の組合せにより、環境負荷が小さく持続可能な都市圏づくりを進めるもの	H16.11.4に設立した「京都府交通需要マネジメント推進会議」において、本モデル事業を議題にこれまで2回開催。次回はH17.10開催予定。本年度は、H17.9、10、11に「おでかけマップづくり」WSを開催予定。JR亀岡駅駅前広場整備事業等を実施（H17当初予算額：約7億円）。
9	古都奈良における平城遷都1300年記念事業に向けた交通流対策	多くの来訪者が見込まれる平城遷都1300年記念事業に向け、公共交通機関の利用促進を図ることを基本に、道路等交通基盤整備やマイカー通勤の自粛等、ハード・ソフト両面から効果的に施策を進め、環境的に持続可能な交通を目指すもの	H17.2.1に「奈良EST(環境的に持続可能な交通)モデル事業検討協議会」を設立。本年度はパーク＆ライドシステム推進事業等を実施（H17当初予算額：約88億円）。
10	神戸の都心地域における環境的に持続可能な交通体系の確立	歩行者に利用しやすいまちづくりと利便性の高い交通手段の整備の連携により、自動車からのCO2排出削減を図るなど神戸の都心地域における環境的に持続可能な交通体系を確立しようとするもの	H17.8.19に「神戸市EST推進協議会」を開催。本年度は、エコファミリー制度、エコショッピング制度等の実施、WGによるビジョン策定と市民等の合意形成を図ると共に、市営バスの低公害車の導入等を実施（H17当初予算額：約8億円）。
11	松山まちづくり交通計画の推進	交通結節点整備、サイクル&バスライド等の公共交通機関の利用促進や、交差点改良等の道路整備、低公害バスの導入等、総合的な交通施策を講じることにより、交通分野の環境負荷低減を図るもの	H16.6.28に設立した「松山市のバス利用促進等に関する総合的な計画策定協議会（松山市オムニバスタウン計画策定協議会）」において、本モデル事業を議題にこれまで1回開催。本年度はトランジットモールの導入に向けた検討等を実施（H17当初予算額：約79億円）。

ESTモデル事業
実施地域一覧(地図)

